

食育だより



令和4年
11月号

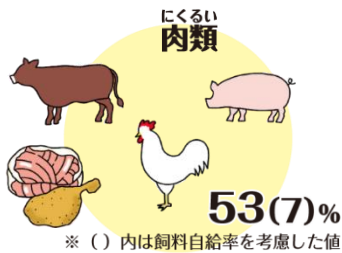
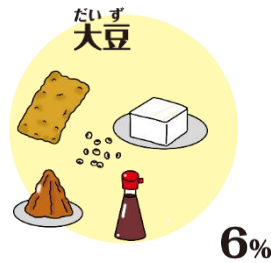
(毎月19日は食育の日)

大田区立中萩中小学校

11月24日は「いい日本食の日」とかけて「和食の日」です。また前日の23日は、古くはお米の収穫を祝う日だった「勤労感謝の日」です。しかし、今、日本の食料自給率は、37%となっています。もし何かの事情で外国から食べ物が増えなくなってしまうとすると少し不安ですね。品目によっても国産で十分まかなえるもの、外国に大きく頼っているものがあります。日本の食の今の姿をきちんと知り、どうすればよいのか、みなさんの立場でできることを考えてみましょう。

これが、今の日本の「食」の姿

農林水産省が発表した令和2年度の各食品の食料自給率（国内の食料全体の供給に対する生産の割合）です。品目別に見ると、国内で生産される割合の大きいもの、小さいものがあります。

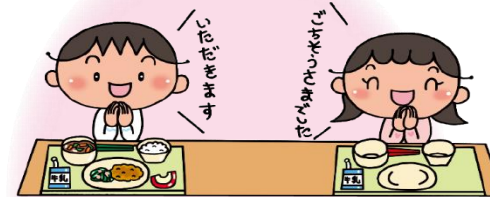


食品ロスを減らそう!

「食品ロス」とは、まだ食べることができるのに、ごみとして捨てられてしまう食べ物のことです。日本では毎年600万トン以上の量が発生しています。日本人1人あたり、毎日お茶わん1杯分のご飯を捨てているのと同じ量になり、これは世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食糧援助量（2018年で年間390万トン）をはるかに超えています。大切な食べ物をむだにせず、また地球環境を守っていくためにも食品ロスを減らす努力が大切です。

食品ロスを減らさなければならない理由

食べ物の「いのち」を
そまつにしないため



食べ物はもともとは生きていのちをもっていたものです。そして食べ物には作ってくれた人の思いや努力が込められています。食べ物をむだにしないことで、生きものたちの命に対する敬意と、作ってくれた人への感謝の心を表すことができます。

地球環境を
守っていくため



食べ物を作ったり、運んだりするとき、私たちはたくさんの水やエネルギーを使っています。さらに食べ残しのごみの処理にも多くのエネルギーが使われ、地球環境に大きな負担となります。食品ロスを減らすことは、むだなごみを減らし、地球を守っていくことにもつながります。

保護者の方へ

日頃より給食指導にご理解とご協力をいただきありがとうございます。引き続き感染症対策を踏まえた給食になっております。手洗いの徹底や児童は前を向いて食べるなどの感染予防に努めてまいります。

なお、11月分の給食費の引き落とし日は11月15日(火)を予定しております。

1・2年-4,100円 *3年-4,245円 *4年-4,245円 5・6年-4,950円

- *3年-6月実施、社会科見学返金分減額対応
- *4年-10月実施、社会科見学返金分減額対応

◎今年度は1・2年の生活科見学は学校で給食を食べるため、社会科見学、移動教室等の返金になります。10月に実施した5年は遠足のため返金はありません。(遠足1回分に関しては全学年返金はありません)

よろしくお願いたします。